

砺波にルーツを持つ人々

～ 砺波から北海道へ～

People who have roots in Tonami

展示図録





『下鹿追郷土史クテクウシ』

砺波と北海道

越中(富山)には江戸の頃より明治にかけて、蝦夷(北海道)の昆布や魚肥のニシンが北前船で越中に運ばれました。越中人はそれらを食生活や農業に取り入れ、日々の生活に根付かせました。越中と蝦夷は遠いながらも深いつながりがありました。

明治に入り、新政府は天然資源が豊かな北の未開地を開拓するため、日本各地から旧士族を屯田兵(平時は農耕に従事し、戦時には兵務に従事する辺境防備の農兵)として入植させました。一定の成果はあがりましたが、一般農民による開拓はなかなか思うように進みませんでした。

そこで北海道庁は明治24年から、定住しにくい単独の移住よりも、家族ごと一世帯が寄り集まって移住する団体移住を奨励し始めました。

一方、明治中ごろの砺波地方では度重なる川の氾濫や害虫ウンカの発生などによって安定した米の収穫が得られず、生活が困窮しました。土地に対して人口が多く、自作農といえども暮らしぶりに余裕はなく、土地を持たない小作農にとっては常に逼迫した状況でした。

そんな日々の厳しい生活を送る中、夢のような噂が砺波の人々の耳に飛び込んできました。北海道へ行けば「土地が無償でもらえる」「その土地は肥沃で肥料がいらない」「税金が免除される」「徴兵が免除される」という話でした。さらに、先に移住した開拓者の成功した話も伝わってきました。

先祖由来の住み慣れた土地を離れ、近親とも別れて見知らぬ土地に行くことはとても覚悟のいることでした。しかし富山県庁の熱心な勧めもあり、先の見えない困窮生活に見切りをつけて、新天地を夢見て、砺波地方から多くの人たちが集団で北海道に移住しました。

砺波にルーツを持つ人々 ～砺波から北海道へ～

展示図録 目次

I	辺境の未開地 北海道 ー時代背景と状況ー	4
	北海道 開拓のあゆみ／全国 一般的な移住のきっかけ グラフ) 北海道移住者の富山県人の割合	
II	富山・砺波の事情 ー夢のような噂 そして新天地へー	8
	砺波地方 農家の諸事情／集団で夢の大地へ 砺波から北海道へ集団で移住した3団体の砺波から入植先までの足取り グラフ) 富山県から北海道への移住者・出稼ぎ人口	
III	石狩国栗沢へ 砺波団体 ー郷里「砺波」の名が残る栗沢町砺波ー	12
	西砺波郡広瀬村坂本(福光)から 開拓への道のり／岩見沢市栗沢町の概要 「砺波団体」の諸事情／常照寺・砺波神社	
IV	十勝国音更へ 江波団体 ー1つの村で団結して移住に成功ー	16
	西砺波郡高波村大字江波村(砺波市)から 開拓への道のり／河東郡音更町の概要 「江波団体」の諸事情／東土狩からクテクウシ(鹿追)へ	
V	天塩国名寄へ 越中団体 ー今も残る故郷の「砺波」名寄市砺波ー	20
	西砺波郡石堤村(高岡市)から 開拓への道のり／名寄市の概要 「越中団体」の諸事情／砺波八幡神社	
vi	移住者出発の港 伏木港	24
	門出の港 伏木港／明治末の伏木町 ー移民宿ー	
vii	開拓地移住地 北海道	26
	北海道の玄関口 小樽港	
Viii	それぞれの移住ストーリー	29
	参考文献	31

凡 例

- * 本書は平成28年10月7日(金)から11月27日(日)の間、砺波郷土資料館が開催した「平成28年度 第40回郷土先人展 砺波にルーツを持つ人々 ～砺波から北海道へ～」の展示図録である
- * 本展示開催にあたって多くの方々、機関の協力を得た。巻末に芳名を記して深く感謝の意を表す。掲載にあたっては敬称を略させて頂いた



平成 28 年度 第 40 回郷土先人展
「砺波にルーツを持つ人々 - 砺波から北海道へ -」 展示図録
(会期:平成 28 年 10 月 7 日~11 月 27 日)



編集・発行： 砺波郷土資料館
〒939-1382 富山県砺波市花園町 1-78
TEL:0763-32-2339 FAX:0763-32-2436

印刷：ジェイエス コーポレーション株式会社